

【佳作】

岐阜大学コーラスクラブの歴史

伊藤 愛美

岐阜大学教育学部学校教育講座／心理学コース 2年

要旨

本レポートは、60年以上もの伝統がある岐阜大学コーラスクラブの歴史についてまとめたものである。本サークルの起源は1954年にまで遡る。最も古いOBの一人である伊藤蓮三氏と一期後輩の服部慧氏が、音楽部との対立や岐大歌う会の協力があつたのち、1955年6月25日に創立した。1957年以降、殆ど毎年定期演奏会を開催しており、1985年には近年では定番となっているアトラクションステージというものが初めて開かれた。全日本合唱コンクールには1958年から1966年までと、1980年から2016年まで毎年出場している。13年間の欠場の理由は、技術性やサークルの在り方について問題があるとされたからである。本レポートは、1995年に、OB・OG協力のもと当時の団員が制作した『岐阜大学コーラスクラブ創立四〇周年記念誌』や、これまでの定期演奏会のパンフレットを参考文献とした。

キーワード：岐阜大学，コーラスクラブ，合唱，大学史，定期演奏会

1. はじめに

岐阜大学コーラスクラブは、今年度、2016年度で創立62周年を迎えた。現在部員86名（2017年1月28日現在。休部者含む。）で、岐阜大学の音楽棟や、大学外部の岐阜市内のコミュニティーセンターにて、基本的には週2回、練習を行っている。主な年間行事としては、全日本合唱コンクールへの出場、定期演奏会、春・夏・冬合宿、合唱祭などが挙げられる。部長、コンダクター、パートリーダーのみならず、マネージャー、先生係、会計、書記など、様々な役職もあり、3回生が執行学年となり、自分たちでクラブを運営し、精力的に活動している。

2. 岐阜大学コーラスクラブの起源（創立四〇周年記念誌 pp.4-5）

岐阜大学コーラスクラブの起源は、1954年にまで遡る。当時、岐阜大学内には、コーラ

クラブとは別に、音楽部というものがあつた。音楽部は、音楽学科の学生が中心となつて、合唱活動をしていたが、人数はあまり多くなかつた。

その頃の日本は合唱活動が盛んで、特に大学の合唱団が沢山あつた。一方で、岐阜大学コーラスクラブの最も古いOBの一人である伊藤蓮三氏は、ある演奏会で、名古屋大学や京都大学の60人から80人による男声合唱の響きに圧倒され、所属していた音楽部の合唱では満足できなくなつた。そのために、音楽部の同期仲間と共に、数人で男声合唱を始めた。そこで、一期後輩の服部慧氏と意気投合し、学芸学部（のちの教育学部）だけでなく、他学部の有志も集めて、岐大男声合唱団を創るという夢ができた。この夢のために、伊藤氏と服部氏が行動を開始したのが1954年の出来事である。

あらゆる学部生に声をかけ、最初の目標を秋の岐阜大学の文化祭においた。最初の練習では十数人集まつたが、回を重ねるごとに少なくなつていった。しかし演奏会当日には見知らぬ顔も含め40人ほど集まつた。しかしながら、文化祭後の練習では、場所と練習時間の確保もままならず、伊藤氏と服部氏の二人だけに戻つてしまい、当初の夢は崩れてしまつた。

1955年の春には、伊藤氏は音楽部を辞め、「心の通い合うまともな合唱団がほしい」という気持ちが強くなつた。再び服部氏と話し合つたところ、今度は混声合唱団を創ろうということになつた。「メンタルハーモニーを求めて、みんなでコーラスをやりませんか・・・」というポスターを作って学内に呼びかけた。当時、全国的にうたごえ運動が盛んで、岐阜大学内にも岐大歌う会があつた。その岐大歌う会で活動していた長谷川氏が真っ先に二人と一緒にやったらどうかと声を掛けたが、伊藤氏は物足りなさを感じ同調できず、結果的に、岐大歌う会が伊藤氏と服部氏の目指す混声合唱団に協力する形となつた。

こうして1955年6月25日、岐阜大学コーラスクラブが創立した。その日のことを、伊藤氏はこう述べている。

その日は土曜日だったので、午後胸を躍らせながら十一番教室へ行った時、もう二十数名の人達が集まつていた。みんなの前に出て行った時は、喜びのために全身が震えて何を話したか憶えていない。皆歌うことへの積極的な、喜びに満ちた明るい顔だった。お互いに心と音の二つのハーモニーを求めて、ここにコーラスクラブの歩みは始まつた。

それから、練習を重ねるうちに、メンバーも増えていき、コーラスクラブと音楽部の合唱団が競い合うようになっていった。岐阜大学コーラスクラブとしての初めての演奏は第7回岐阜大学文化祭（1955年11月19日から4日間。演奏は最終日。）で、30名程度のメンバーで、現在でも歌い継がれている、岐阜大学コーラスクラブのテーマソング『歌え高らかに』など4曲を歌つた。

その翌年の文化祭を終えたころ、音楽部合唱団は無くなった。こうして、コーラスクラブは岐阜大学で唯一の合唱団となった。

3. 演奏会

定期演奏会の歴史

岐阜大学コーラスクラブによる初めての演奏会は、1957年3月9日、岐阜市明德公民館にて行われた。それから、1977年度を除き¹、毎年、岐阜大学コーラスクラブは定期演奏会を開催しており、今年2015年度で第58回目を迎えた。

アトラクションステージ

岐阜大学コーラスクラブには、定期演奏会時に、この団独特の『アトラクションステージ』というものがある。近年は、この団のこのステージの為だけに、Jポップ²などを合唱にアレンジしていただき、団オリジナルの劇の合間に合唱を取り入れるという、一風変わったステージとなっている。合唱中は、編曲してくださった先生が弾かれるピアノ伴奏のみで、指揮者はおらず、合唱しながらダンスを披露することも恒例となっている。

初めてアトラクションステージを行ったのは、1985年に開催された第27回定期演奏会のときである。

このステージでは、「せっかくおいで下さいました皆さまに、私たちのクラブをもっとよく知ってもらいたい。」と願う気持ちのあらわれで、私たちのクラブの紹介を兼ねたステージにしたいと思います。

第27回定期演奏会パンフレット p.9 には、上記のように書かれており、明確に曲名は記されていないが、「愛唱歌、思い出に残っている歌を集めてみました。」とある。現在のアトラクションステージのように、劇やダンスを取り入れたかどうかは不明である。

また、翌1986年第28回定期演奏会では、アトラクションステージという名はないが、

¹ 1977年度にも、1978年3月18日に演奏会は行われている。しかし、定期演奏会にはカウントされておらず、1976年度に第20回定期演奏会、1978年度に第21回定期演奏会が開催された（創立四〇周年記念誌 p.79-80）。なぜ「定期演奏会」でなかったのかは不明。

² 「Jポップ」とは、「ジャパニーズ・ポップス」の略である。そもそも「ポピュラー音楽」とは、マスメディアを通して広く知られている大衆音楽のことであり、「ポップ」とは1950年代にイギリスでロックンロールとそれに影響を受けた若者向けの音楽スタイルを指す言葉であるのに対し、日本では、欧米のヒット曲とそれらに影響された日本の曲の総称として「ポップス」という言葉が使われてきた（新編 音楽小事典 p.352）。また、「Jポップ」という言葉が使われ始めたときには、Jポップは「洋楽と肩を並べることができる、センスのいい邦楽」「洋楽の何に影響を受けたかはっきりわかる邦楽」とされていた（Jポップとは何か pp.7-8）。

『Screen Music』と題したステージで、手拍子・足拍子のある曲や、ビートルズなどの有名曲を歌った。また、このステージを構成するにあたって、プロジェクトチームを結成した（第28回定期演奏会パンフレット p.6）。

その翌年1987年の第29回定期演奏会では、第2ステージにて、『ディズニーのうた』を演奏した。パンフレットにはアトラクションステージという名前はないが、四〇周年記念誌 p.58 にて、「定演でのアトラクションステージ“ディズニーのうた” がとっても楽しくて一生忘れられない！」とある。

第30回（1988年）はパンフレットが見つからなかったため不明であるが、第31回（1989年）から第33回（1991年）定期演奏会までアトラクションステージはやっておらず、第34回（1992年）定期演奏会にて、劇団四季の有名ミュージカルであるCATSの曲集を演奏し、ストーリー性はないものの、猫たちの紹介を行った。第35（1993年）、36回（1994年）定期演奏会でも、続けてアトラクションステージを披露している。第35回定期演奏会のパンフレットから、既存のミュージカルの楽譜を用いて劇とダンスを行ったと伺える。また、第36回のパンフレットによると、1960年代に流行したフォークソング集を歌った。劇やダンスを披露したか否かは不明である。第37回（1995年）パンフレットには、アトラクションステージではなく、オリジナルステージという名称で、日本抒情歌曲集を静かに演奏した。第38回（1996年）、第39回（1997年）定期演奏会ではそういったステージはなく、第40回（1998年）から第43回（2001年）までは、資料が見つからず不明である。

第44回（2002年）定期演奏会から、2016年1月の第58回定期演奏会まで、アトラクションステージは行われてきた。³これらのステージすべてで、同じ先生に編曲を頼み、今と同じように、自分たちで作り上げ、歌い踊り演じるステージを披露してきた。しかし、団員がピアノを弾いたり、先生や団員による指揮があったりして、現在のステージとは少しずつ異なっていた。第58回定期演奏会のアトラクションステージと同じように、指揮者なしで、役者のセリフがきっかけとなり演奏に入るという形で行われたのは、2011年の第53回定期演奏会でのアトラクションステージが初めてである（先輩談）。

ジョイントコンサート

他大学とともに、ジョイントコンサートも開催したことがある。初めてのジョイントコンサートは、1982年7月15日に、名古屋大学男声、金城学院大学グリーと、愛知県勤労会館にて行われた。それから、2年に1回ほどのペースで、名古屋大学、金城学院大学のほかに、三重大学、愛知教育大学、愛知淑徳大学、愛知大学などと共に演奏をしてきた。しかし、1995年8月9日に、愛知大学男声合唱団、愛知淑徳大学合唱団、名古屋大学男声合唱団と、合同演奏会『異団同音』を開催して以来、資料はない。

³ 第45回、第51回は資料がないため、断定はできない。

4. 全日本合唱コンクールへの出場

岐阜大学コーラスクラブが、初めて全日本合唱コンクールに出場したのは、1958年10月26日であった。結果は、中部地区大会で、大学15校中、第5位入賞であった⁴（創立四〇周年記念誌 pp.10,76）。その後、1966年まで毎年出場したが、1967年から1979年までは欠場であった。そして1980年から今年度の2015年まで、毎年出場している。⁵

1967年～1979年 コンクール欠場の理由

1967年に、コンクール欠場を決めた理由は、1959年から1965年までの7年間、中部大会での3位という成績が変わらず、技術性やサークルの在り方について問題があるとされたからである。コンクール前の3か月間、課題曲と随意曲の2曲のみに集中する練習について、時間をもったいないとする意見と、合唱の質を極めるチャンスだとする意見があり、当時のクラブ全体としては、「コンクールに出なければいけないことをやってみよう」と、コンクール欠場を決定した（第10回定期演奏会パンフレット p.10）。その後、技術の低下や、演奏旅行（後に記述）の意義など、様々な議論がなされたが、1979年まで、欠場が続いた。

そして1980年に、コンクール再出場を決めた理由は、当時の団員の技術向上を目指す心や、一度は出場してみたいという意欲、また演奏旅行のマンネリ化であった。この年は、岐阜県コンクールにて、銀賞を受賞した（第23回定期演奏会パンフレット p.11）。

コンクール成績

これまでの目覚ましい成績としては、1994年、第47回全日本合唱コンクールにて、全国大会初出場を果たし、銅賞を受賞した。また、2000年の第53回コンクールでは、全国大会で初めての金賞受賞を果たした。これまでの全日本合唱コンクール全国大会での成績は以下のとおりである。

| | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1995年 第48回 銅賞 | 1998年 第51回 銅賞 | 2000年 第53回 金賞 |
| 2001年 第54回 銅賞 | 2004年 第57回 金賞 | 2005年 第58回 銀賞 |
| 2006年 第59回 銀賞 | 2009年 第62回 銅賞 | 2014年 第67回 銅賞 |

⁴創立四〇周年記念誌 p.13 には、同じコンクールの結果であると思われるが、第3位入賞とある。しかし、本レポートでは、第9回定期演奏会パンフレット p.7 における「10月には初の中部合唱コンクールに参加し第5位の成績を得ました。この感激を胸に更に努力し翌34年には三位入賞。」の記述を信頼する。

⁵1995年度までは創立四〇周年記念誌に、2007年度以降は全日本合唱連盟のホームページに、2003年度から2006年度までは各年度の定期演奏会のパンフレットに記載があるが、1996年度から2002年度までは、資料がないため、断定はできない。

5. 演奏旅行

初めて演奏旅行を行ったのは 1956 年のことであり、長野県神坂村へ行った（創立四〇周年記念誌 p.10）。演奏旅行は、夏休みを利用し、生の音楽を聴く機会の少ない僻地の子どもたちに演奏を聴いてもらい、歌うことの楽しさや合唱の美しさを知ってもらうために計画されたものである（第 16 回定期演奏会パンフレット p.12）。1961 年から 1979 年まで、ほぼ毎年行われており、約一週間かけて、主に岐阜県内の小学校や中学校を回っていた。演奏内容は、混声合唱、同声合唱、ソロ・デュエット・トリオ・カルテットによって、童謡や民謡を演奏することが多かった。オペレッタ⁶も行っていた。寺や学校の教室、体育館などに泊まり、自炊をして集団生活をしてきた。夜にはオリエンテーションで寸劇を披露しあっていた。演奏旅行は 1981 年に一度復活（創立四〇周年記念誌 p.46）して以来、2015 年度まで行われていない。

6. おわりに（不明点、他の議題について）

今回のレポート作成にあたって、岐阜大学コーラスクラブ創立四〇周年記念誌をはじめ、過去の定期演奏会のパンフレットを見たり、先輩に話を伺ったりした。資料や時間不足のために、まとめきれなかったことも沢山ある。最後にそれらについて述べることにする。

スタッフについて

はじめに述べたが、岐阜大学コーラスクラブは、多くのスタッフによって運営されている。現在、部長、コンダクター、パートリーダー、チーフマネージャー、パートマネージャー、先生係、会計、書記、OB 係、渉外、サークル協議会議員、合唱連盟理事、合唱連盟事務局が役職として置かれている。これらの役職が、いつから機能し始めたのか、また、活動内容はどのようなものであったのかについて、わかっていない。

また、少なくとも 2004 年度まで、現在は置かれていない「管理」という役職があった（第 46 回定期演奏会パンフレット）のだが、この「管理」の仕事内容、消滅した理由は不明である。

また、現在は 10 月ごろにスタッフ改選を行い、一回生と二回生が、各役職に就くためにエントリーシートを書き、10 分間の演説、質疑応答を行い、団員から信任されなければならない。⁷しかし、この選挙の方法はいつから受け継がれているものなのかは不明である。

⁶ オペレッタとは、小規模なオペラを意味する用語であり、狭義では 19 世紀後半に各国で成立した大衆のための喜劇的な内容の音楽的劇作品のことである（新編 音楽小事典 pp.57,89）。

⁷ 当選には、団員数の 3 分の 2 以上の参加者があり、総投票数の 9 割以上の信任票を必要

ただ、1979年度に初めて『役員選挙』が行われ、1981年度には、今と同じく『スタッフ改選』という名前で選挙が行われていたということはわかっている（第22回、第24回定期演奏会パンフレット）。

また、現在では、団員全員に、何かしらの定期演奏会スタッフが割り当てられている。アトラクション、進行、チラチケ、パンフ、飲み会、写真、立て看、録音の8つに分かれて、二年生主体となって、定期演奏会が近づいてくると活動を開始する。これらについては選挙を伴わない。これらもいつ発足されたものなのかは不明である。

合宿について

はじめに述べたように、近年は、春・夏・冬と、年に3回の合宿を行うが、これらがいつから恒例になったのか、また、どこで合宿を行っていたのか、合宿で何を行っていたのか、もっと調べてみたい。また、創立して間もないころには、男女別で合宿を行うことがあったようなので、それについても気になるところである。

先生について

これまで岐阜大学コーラスクラブは様々な先生、指揮者、ヴォイストレーナーなどによって支えられてきた。逆に、指導者のいなかった時期もあったようだが、これらについては、定期演奏会のパンフレットを参考にまとめることは可能だと考えられるが、時間の都合で今回はまとめることができなかった。

部室について

現在、ボックスと呼ばれるコーラスクラブの部室が存在する。これは、創立四〇周年記念誌のあらゆる記述により、岐阜大学が1980年代に長良から柳戸に移転された頃からあったものだと考えられるが、定かではない。また、岐阜大学が長良にあった頃の部室については不明であり、またボックスがなぜボックスと呼ばれているのかも不明である。

遊び企画やコンパについて

最近の団員は、オールナイトでのカラオケ、バーベキュー、自炊、ビアガーデン、海、花火大会、肝試し、キャンプなど、団員の団員による団員のための交流企画が不定期に行われている。このために、歌にも遊びにも全力と言われる、現在の岐阜大学コーラスクラブであるが、こういった風潮がいつから始まったものなのかははっきりとはわからない。

また、このクラブでは、新入生歓迎コンパに力を入れている。2015年度は、バーベキュー、お菓子パーティー、自炊、歌おう企画など、4月の平日には毎日のように行っていた。

とする。この場合の参加者とは、出席者と委任状の合計であるが、委任状は団員数の9分の2を上限としている（岐阜大学コーラスクラブ規約2016年度）。

創立四〇周年記念誌を見てみると、新歓の豪華さは、最近始まったことではないようで、創立間もないころから、新歓ピクニックや新歓合宿を行っていたようだ。新歓コンパについては、もう少し詳しく調べてみたい事柄の一つである。

また、クリスマスの頃には毎年クリコンと称し、パーティーを開催するが、これがいつからの恒例行事なのかかわかっていない。年末の忘年会や、岐大祭後のたこ焼きコンパ、通称タココンについても同様である。

文化祭について

第2章で述べた通り、このクラブは岐阜大学の文化祭で初演奏を果たしたのだが、近年、岐大祭では、合唱は披露せず、たこ焼きと、その年独自の屋台で定番のメニューを提供している。いつから合唱を披露しなくなってしまったのか、いつから出店しているのか、初めての出店時からたこ焼きを提供していたのか、調べてみたい。これについては、岐大祭の歴史も並行して調べていかなければならない。

機関誌について

現在、このクラブでの機関誌は「風香和穩（ふきょうわおん）」である。大体月に1回、書記によって発行されている。しかし、創立四〇周年記念誌や、過去の定期演奏会パンフレットを読んだことにより、創立当時は「十一番」、それからしばらくして「おんち」という名前の機関誌が発行されてきた。しかし、それらの機関誌名の変更がいつ行われたのか、なぜ行われたのか、「十一番」や「おんち」はどのような内容で、誰によって発行されていたのかは不明である。

不明点が多いこともまた、岐阜大学コーラスクラブの歴史の長さ、深さを表している。

【参考文献】

岐阜大学コーラスクラブ創立四〇周年記念業実行委員（1995）『岐阜大学コーラスクラブ 創立四〇周年記念誌』、岐阜大学コーラスクラブ OB 会・岐阜大学コーラスクラブ。

『岐阜大学コーラスクラブ定期演奏会 第2回-33回』（岐阜県立図書館所蔵 1・3・7・30-32 回欠号）。

岐阜大学コーラスクラブ定期演奏会 第31, 32, 34-39, 44, 46-50, 52, 54, 58 回パンフレット。

金澤正剛監修（2004）『新編 音楽小事典』、音楽之友社、pp.57,89,352。

烏賀陽弘道（2005）『J ポップとは何か』、岩波書店、pp.7-8。

【参考 URL】

岐阜大学コーラスクラブホームページ「プロフィール」

(<http://gifuchorus.web.fc2.com/sub1.html>, 2016年1月30日確認)。

全日本合唱連盟ホームページ「全日本合唱コンクール 過去の結果」

(<http://www.jcanet.or.jp/event/concour/kako/con-kako-index.htm>, 2016年1月31日確認)。